8 月 3-9 日

エレミヤ 22-23 章

---

40 番の歌と祈り | 開会の言葉（1 分）

神の言葉の宝

1. 羊をよく世話する牧者が必要（10 分）

ユダの牧者たちは民を世話しようとしなかった。（エレ 23:2。エゼ 34:2-5）

預言者たちは手本を示すどころか悪いことを言ったりしたりして，自分たちと同じことをするよう民をけしかけた。（エレ 23:14，15。塔 94 3/1 8 ページ 4 節。洞「背教」5 節）

クリスチャンの牧者たちは神の羊の群れを進んで世話し，良い手本になるよう努力している。（ペテ一 5:2，3）



調べてみよう エレミヤ 23 章 5，6 節の預言が実現することは，どのように私たちのためになるか。

2. 宝石を探し出す（10 分）

エレ 23:33 「この民か預言者か祭司が，『エホバからのどんな重々しい言葉(*重荷/c このヘ語には「神からの重要な宣告」と「負担となる重いもの」という 2 つの意味合いがある)があるか』と尋ねる時，あなたはこう答えなさい。『「重くて厄介(*)なのはあなたたちだ！ 私はあなたたちを捨てる」と，エホバは宣言している』。

「エホバからのどんな重々しい言葉があるか」という質問に対し，エホバはどんな予想外の答えをしたか。（塔 94 3/1 12 ページ 19 節 19 ヘブライ語のこの「重荷」という言葉には二つの意味があります。それは神からの重苦しい宣告を指す場合もあれば，人にのしかかって疲れさせるものを指す場合もあります。ここで使われている「エホバの重荷」という表現は，重苦しい預言 — エルサレムが滅びに定められているという宣告 — を指しています。民はエレミヤがエホバから与えられて彼らに繰り返し述べたそのような重い預言の言葉を好んで聞いたでしょうか。いいえ，民はエレミヤを笑い物にし，『今度はどんな預言（重荷）があるのか。お前の預言はきっとまたいつもと同じ，うんざりするような重荷なんだろう』と言いました。しかし，エホバは彼らに何とお告げになったでしょうか。エホバはこうお告げになりました。「あなた方がそれである — ああ，何という重荷であろうか！ そして，わたしは必ずあなた方を見捨てるであろう」。そうです，

エホバにとってはこの人々こそ重荷だったのです。それでエホバは，彼らを取り除いてご自分の重荷とならないようにしようとしておられたのです。／聖 8-参 エレ 23:33，脚注）

今週の範囲からどんな宝石を見つけたか。

3. 聖書朗読
（4 分）エレ 23:25-36（教励 第 11 課）

野外奉仕に励む

4. 会話を始める
（4 分）家から家で。宣教ツールボックスの動画を紹介する。（愛込 レッスン 3 ポイント 4）
5. 再び話し合う
（4 分）家から家で。前回話したテーマの雑誌を渡す。（愛込 レッスン 9 ポイント 5）
6. 話
（4 分）愛込 付録 A ポイント 19 主題: イエスは神の子。（教励 第 15 課）

クリスチャンとして生活する

103 番の歌

7. 「JW ヒストリー 兄弟姉妹の絆を強める統治体 パート 1」（15 分）討議。
動画を再生する。次の質問をする。
・インターネットなどの技術が発達する前から，統治体は牧者として兄弟姉妹をよく世話してきました。どんなことをしましたか。⇒禁令下を含めて各地を訪問して兄弟たちを強めた。

8. 会衆の聖書研究（30 分）勇 2 章

閉会の言葉（3 分）| 60 番の歌と祈り

^（エレ 22:1-23:40） エホバはこう言う。「ユダの王の家*に行き，この言葉を伝えなさい。 2 こう言わなければならない。『ダビデの王座についているユダの王よ，エホバの言葉を聞きなさい。これらの門を通って入る，あなたの家来や民も。 3 エホバはこう言っている。「公正と正義を守りなさい。物を奪われている人を，だまし取る人の手から救いなさい。外国人居住者を不当に扱ってはならず，父親のいない子供*ややもめに危害を加えてはならない。この場所で無実の人の血を流してはならない。 4 もしあなたたちがこの言葉を注意深く実行するなら，ダビデの王座につく王たちはこの家の門を通って入ることになる。兵車や馬に乗って，家来や民と共に入る」』。 5『しかし，もしあなたたちがこれらの言葉に従わないなら，この家は廃虚と化す。私は自分自身に懸けてそう誓う』と，エホバは宣言する。 6 エホバはユダの王の家についてこう言う。『あなたは私にとってギレアデのようであり， レバノンの頂のようである。 しかし，私はあなたを荒野にする。 あなたのどの町にも人が住まなくなる。 7 私は滅ぼす者たちを任命して*あなたを攻めさせる。 それぞれが武器を持っている。 彼らはあなたの最良の杉を切り倒し，火の中に投げ込む。 8 多くの国の人々がこの都市のそばを通って，「なぜエホバはこの大きな都市にこのよう